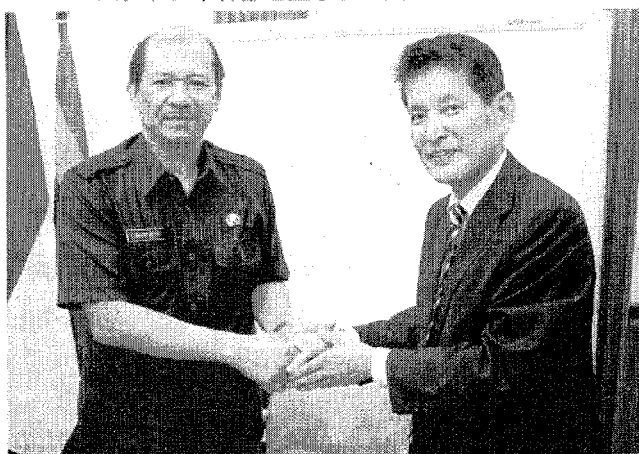


ごみ処理で協力深める



インドネシア・バンドン市で開かれたごみ問題を話し合うセミナー―岡山市提供

インドネシア・バンドン市を訪問



バンドン市幹部と握手する山田次長―岡山市提供

岡山市環境局職員ら

ごみ問題に悩むインドネシアとの協力関係を深めようと、岡山市環境局の山田耕市次長ら3人が6月25日から9日間、インドネシア・バンドン市などを訪問した。バンドン市から大規模なごみ焼却場建設計画に協力を求められ、山田次長も「技術・運営ノウハウを提供したい」と意気込む。秋には同国の担当者を岡

山市に招く予定だ。訪問は、岡山大廃棄物マネジメント研究センター(北区)がアジア太平洋でのごみ減量を目指して取り組む「岡大発Xプロジェクト」の一環として実現。山田次長らは同センターの藤原健史教授と、現地のごみの最終処分場などを視察、同国の研究者や行政担当者らと意見交換をした。

人口約240万人のバンドン市は、ごみを燃やせずに最終処分場に埋め立ててきた。だが経済成長とともにそれでは間に合わなくなり、1日2800トンのごみを燃やす焼却場建設を計画した。岡山市の3焼却場の1日の処分量970トンの3倍近い巨大な焼却施設だ。

意見交換では、山田次長が岡山市のゴミ処理施設の概要や運営方法を紹介。生ごみが多ければ焼却費用が違ってくることを説明した。インドネシア側からは「ダイオキシン対策はどうなっているのか」などの質問が出されたという。

バンドン市はごみの2割は、廃棄物の削減(リデュース)、再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)という「3R」で減らし、残りを焼却する計画という。山田次長らはバンドン市側からそのための継続的な技術支援を要請された。

山田次長は「高度成長とともにごみが増えた昭和30年代の日本によく似ていると感じた。初めての焼却炉の導入で、性能をどう確保するかなど課題に直面している。可能な限り助けたい」と話している。

【井上元宏】

市民のひろば

おかやま

岡山市役所代表電話番号 ☎086-803-1000

※各区役所へも代表電話からおつなぎします。

岡山市ホームページ <http://www.city.okayama.jp/>

携帯ホームページ <http://mobile.city.okayama.jp/>

No.1307



2011
8
August



環境について考える機会です

第2回 集まれ！市民の エコライフ&テクノロジー

問い合わせ

岡山大学廃棄物マネジメント研究センター ☎086-251-8911

岡山市エコ技術研究会事務局 ☎086-944-7705

岡山県や他府県の環境団体が知恵を絞り、エコライフ・テクノロジーについてさまざまな展示を行います。当日は、内藤正明氏（滋賀県琵琶湖環境科学研究所センター所長）による、エコライフについての講演もあります。次世代のために、地球温暖化のこと、資源のこと、生態系のことを考えながら、一緒にエコな暮らしや技術を体験しませんか？

◆日時 8月20日(土) 10時～

関をご利用ください。

なお、当日は公共交通機



◆場所 岡山大学創立五十周年記念館（北区津島中三丁目）

16時

廃油でキャンドル？

岡山大で
高校生ら
エコライフを体験

環境にやさしいライフスタイルなどを紹介する「集まれ！市民のエコライフ&テクノロジー」が20日、北区津島中の岡山大学創立五十周年記念館で開かれた。岡山大学廃棄物マネジメント研究センターが主催した。高校生らが節電に関するパネル展示などを熱心に見入っていた。

会場では岡山大でリサイクル市などを開くサークル「環境部ECOLO」が廃油のキャンドル作り体験やおからを使ったクッキー販売などを行った。キャンドルは使用済みの食用油と油凝固剤を使い、着色用のクレヨン、



ガラス瓶にキャンドルの原料を流し込む高校生

北区で

油のにおいを抑える香料も加えていた。岡山一富高1年、川本雄大さん(15)は「やっぱり油のにおいはする

けど、油を捨てるに再利用するのはいい」と笑顔で話した。

イベントでは琵琶湖

環境科学研究所長の内藤正明さんによる「本当のエコライフとは何かを考える」と題した講演などもあった。

【石井尚】

講演や展示から
環境問題を理解

岡山大で啓発催し

岡山大学廃棄物マネジメント研究センターは20日、岡山市北区津島中の岡大創立50周年記念館で環境啓発イベント「市民のエコライフ&テクノロジー」を開いた。市民ら約150人が講演やパネル展示を通じ、省エネや環境問題に理解を深めた。

研究者ら7人が講

演。滋賀県琵琶湖環境科学研究所長の内藤正明所長は「米国から穀物を大量に輸入している日本は、穀物を消費後にリサイクルしても最終的に残ったごみがたまり、国内に環境負荷が残る。本当の意味での循環型社会にはならない」と説明。地産地消を進め、自然と共生していく大切さを訴えた。

を訴えた。

会場には自治体や環境団体などが、用水路を利用した小水力発電の紹介パネルなどを展示。廃食用油からキャンドルを作る体験教室もあり、子ども2人と挑戦した同津島福居、主婦吉本葉子さん(42)は「少しの工夫で再利用できると知った。子や孫の世代に美しい環境を残すために気をつけたい」と話していた。

(小谷章浩)

308

ごみ処理視察団 市役所を訪問 インドネシアの4人

インドネシア・パン

ドン市から、ごみ処理
システムの視察団が来



工科大のモハメド・カ
エル教授ら4人。アジ
ア太平洋地域の廃棄物
問題を研究している岡
山大が招いた。

市役所では松田隆之
環境局長を表敬した
後、市役所南側の資源
化ごみの回収拠点や、
岡南環境センター(南
区豊成)などを見学。
カエル教授は一バンド
ン市は人口増や焼却施
設不足でごみ処理が十
分にできていない。岡
山の分別方法を参考に
したいと話していた。

6日まで滞在する。

(藤田勝久)

岡山、1日、岡山市役
所を訪問した。写真。

視察団は、バンドン

市のアフメド・レコト

市環境局長、バンドン